

授業評価アンケートまとめ

2010 年度

名古屋学芸大学

教育方法等検討委員会

はじめに

本学では、2007年度より、学生による「授業評価アンケート」を全学的に実施してまいりました。このアンケートは、本学の教育の質の向上を目指すFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の一環として実施するものであり、教員が学生の授業の受け止め方(意識)を把握し授業改善に役立てることを目的としています。

2010年度につきましても次の要項のとおり実施しました。授業担当者ごとのアンケートとその集計結果は、それぞれが授業改善に役立てるべく返却しております。ここにその大学全体の集計結果をお示し、本学の授業のありようを簡単にご説明申し上げます。

実施要項

学生による授業評価アンケート実施要項 (2010年度)

名古屋学芸大学
教育方法等検討委員会

1. 目的

当「学生による授業評価アンケート」は、本学の教育の質の向上を目指すFD（ファカルティ・ディベロップメント）活動の一環として実施するものであり、学生の授業の受け止め方(意識)を把握し授業改善に役立てることを目的とするものである。

2. 調査の実施方法等

実施時期	前期の13～15回目の授業で実施する。
実施方法	授業担当教員が、学生にアンケート用紙を配布し、学生に無記名で回答させ、担当教員が回収する。
調査の対象科目	【原則1教員1科目(1コマ*)】原則として、各教員が受け持つ授業科目のうち1科目(1コマ)をアンケートの調査対象とする。また非常勤講師が担当する授業科目についても同様とする。なお、オムニバス方式の授業等、複数の教員が担当する科目や提出期限に間に合わない集中講義はその対象としない。
アンケートの様式	授業形態（講義科目、演習科目、実験・実習科目）にかかわらず同一の様式を使用する。なお、必要に応じて教員独自の設問を設定することができる。
アンケート用紙の	アンケート用紙を教員メールコーナー等に設置する。担当教員は

配布(設置)	各自で必要な枚数分を受け取り、上記の通り調査を実施する。
調査済みアンケート用紙の回収・提出	担当教員は、調査終了後速やかに回収したアンケート用紙を封入し、指定された期日までに指定された場所(教務課または学部事務室)に提出する。

1科目(1コマ*)とは1科目に複数の授業がある場合、**1授業のみ実施**するという意味です。

3. 調査結果の集計等

アンケートの集計は、外部機関(業者)に委託し次の通り行う。

- ① 各教員の授業ごとの集計
- ② 授業形態ごとに、大学全体、学部、学科、教養および教職(学芸員課程含む)の単位での集計

※自由記述欄の回答は集計の対象外とする。

4. 調査結果のフィードバック

集計結果は、授業ごとのものは各授業担当者に配布する。授業担当者は結果を活用し授業改善に役立てる。全体の集計結果(②のデータ)は、教育方法等検討委員会作業部会が預かり、調査結果の把握及び分析に当たり、大学としての組織的な授業改善を目指す。

5. 調査結果の取り扱い

全体集計結果(②のデータ)は、教育方法等検討委員会の管理下に置き、教務課で保管する。また集計結果については、大学全体、学部、学科、教養および教職(学芸員課程含む)ごとに各項目の平均値をHP等で公表する。

以上

集計結果

- ・名古屋学芸大学 授業評価アンケート集計表 (講義)
- ・名古屋学芸大学 授業評価アンケート集計表 (演習)
- ・名古屋学芸大学 授業評価アンケート集計表 (実験・実習)

名古屋学芸大学 授業評価アンケート集計表 2010年度

授業方法 講義

平均値の算出方法:下記の式を用いる。なお、無回答は有効回答数に含めないものとする。

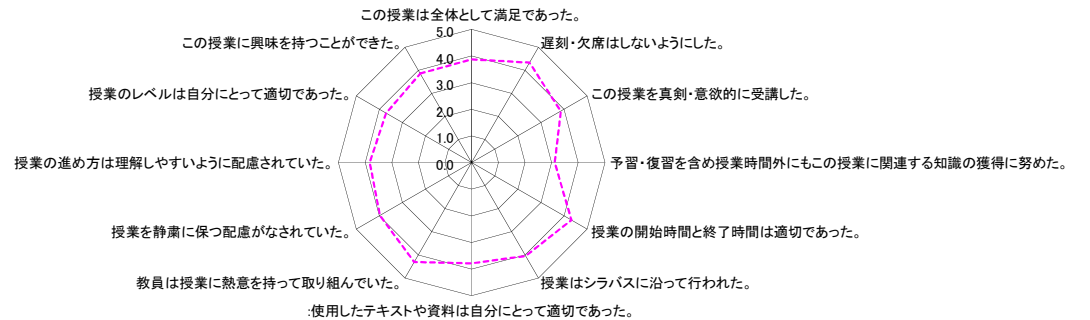
$$\frac{\{ (5 \times \text{選択人数}) + (4 \times \text{選択人数}) + (3 \times \text{選択人数}) + (2 \times \text{選択人数}) + (1 \times \text{選択人数}) \}}{\text{有効回答数}}$$

※小数点以下第2位を四捨五入

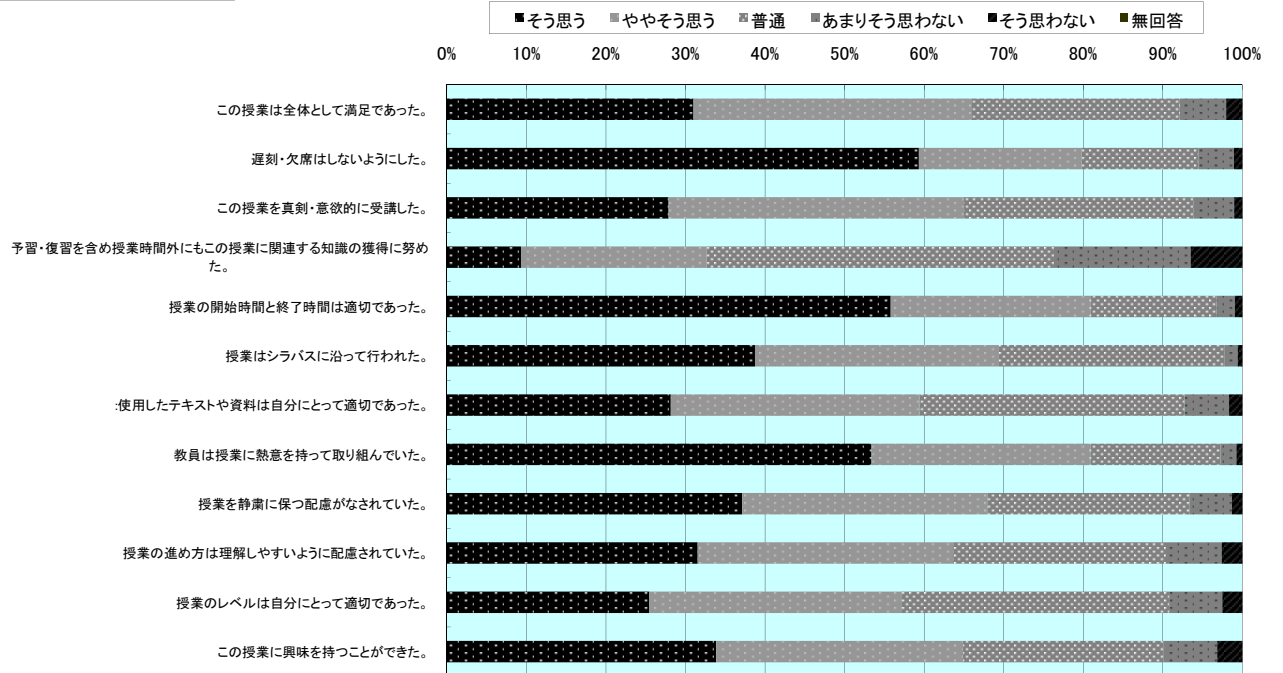
項目別回答分布(5. そう思う 4. ややそう思う 3. 普通 2. あまりそう思わない 1. そう思わない 9.無回答)

設問内容	5	4	3	2	1	無回答	平均
A-1 この授業は全体として満足であった。	1653	1867	1393	311	108	0	3.9
B-1 遅刻・欠席はしないようにした。	3173	1096	782	239	56	0	4.3
B-2 この授業を真剣・意欲的に受講した。	1488	1981	1541	273	53	0	3.9
B-3 予習・復習を含め授業時間外にもこの授業に関連する知識の獲得に努めた。	496	1237	2318	912	343	0	3.1
C-1 授業の開始時間と終了時間は適切であった。	2983	1342	847	124	49	0	4.3
C-2 授業はシラバスに沿って行われた。	2070	1638	1512	91	30	0	4.1
C-3 :使用したテキストや資料は自分にとって適切であった。	1502	1665	1777	299	87	0	3.8
C-4 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	2852	1469	872	108	39	0	4.3
C-5 授業を静粛に保つ配慮がなされていた。	1984	1646	1360	284	68	0	4.0
C-6 授業の進め方は理解しやすいように配慮されていた。	1685	1713	1429	374	138	0	3.8
C-7 授業のレベルは自分にとって適切であった。	1360	1691	1800	356	134	0	3.7
C-8 この授業に興味を持つことができた。	1808	1656	1346	358	168	0	3.9
D-1	228	238	183	58	65	0	
D-2	91	126	134	28	11	0	
D-3	74	97	77	25	3	0	
D-4	40	21	36	25	31	0	

評価レーダーチャート



評価帯グラフ



名古屋学芸大学 授業評価アンケート集計表 2010年度

授業方法 **演習**

平均値の算出方法:下記の式を用いる。なお、無回答は有効回答数に含めないものとする。

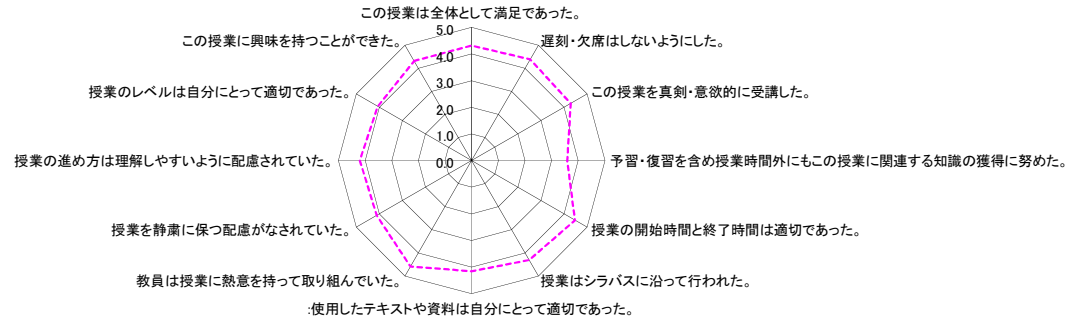
$$\{(5 \times \text{選択人数}) + (4 \times \text{選択人数}) + (3 \times \text{選択人数}) + (2 \times \text{選択人数}) + (1 \times \text{選択人数})\} \div \text{有効回答数}$$

※小数点以下第2位を四捨五入

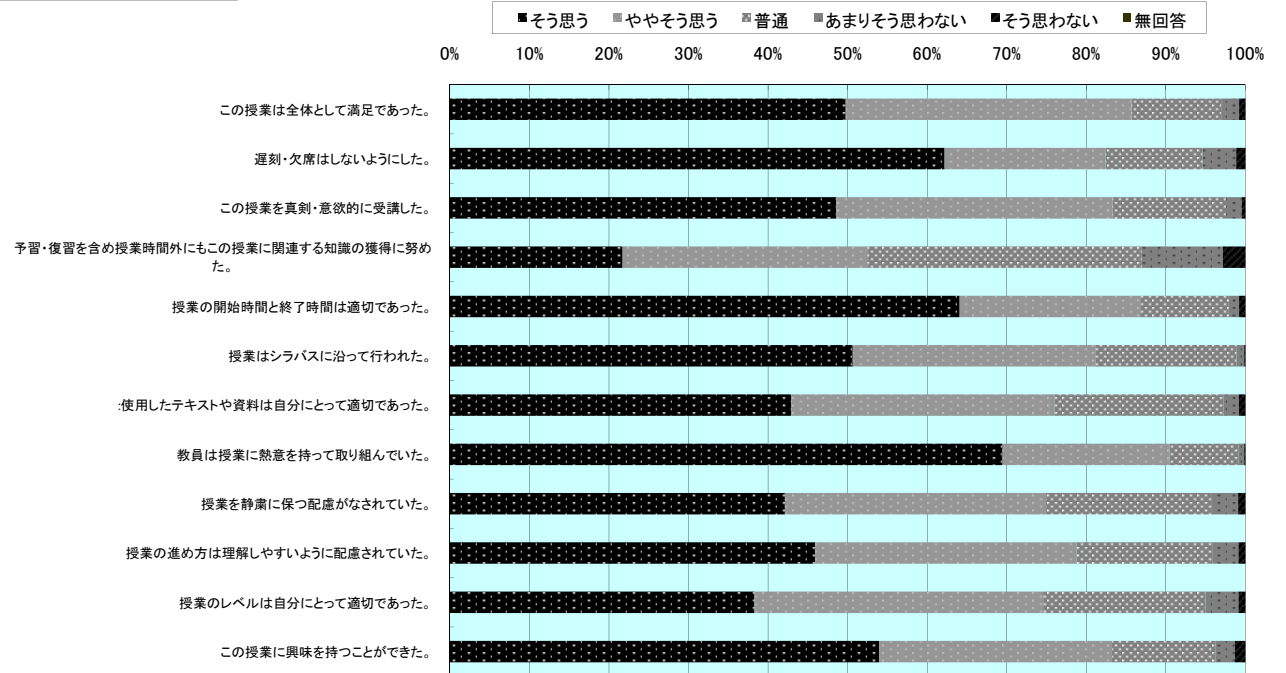
項目別回答分布(5. そう思う 4. ややそう思う 3. 普通 2. あまりそう思わない 1. そう思わない 9.無回答)

設問内容	5	4	3	2	1	無回答	平均
A-1 この授業は全体として満足であった。	1104	797	250	50	17	0	4.3
B-1 遅刻・欠席はしないようにした。	1383	450	271	94	25	0	4.4
B-2 この授業を真剣・意欲的に受講した。	1078	772	316	44	10	0	4.3
B-3 予習・復習を含め授業時間外にもこの授業に関連する知識の獲得に努めた。	483	686	764	226	63	0	3.6
C-1 授業の開始時間と終了時間は適切であった。	1426	504	248	29	17	0	4.5
C-2 授業はシラバスに沿って行われた。	1127	679	395	21	3	0	4.3
C-3 :使用したテキストや資料は自分にとって適切であった。	954	736	471	43	18	0	4.2
C-4 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	1545	467	193	15	3	0	4.6
C-5 授業を静粛に保つ配慮がなされていた。	936	730	463	73	20	0	4.1
C-6 授業の進め方は理解しやすいように配慮されていた。	1020	730	379	73	19	0	4.2
C-7 授業のレベルは自分にとって適切であった。	851	807	453	92	19	0	4.1
C-8 この授業に興味を持つことができた。	1198	649	288	54	29	0	4.3
D-1	188	149	73	20	4	0	
D-2	138	70	48	16	4	0	
D-3	56	28	27	3	1	0	
D-4	19	16	14	2	2	0	

評価レーダーチャート



評価帯グラフ



名古屋学芸大学 授業評価アンケート集計表 2010年度

授業方法 実験・実習

平均値の算出方法: 下記の式を用いる。なお、無回答は有効回答数に含めないものとする。

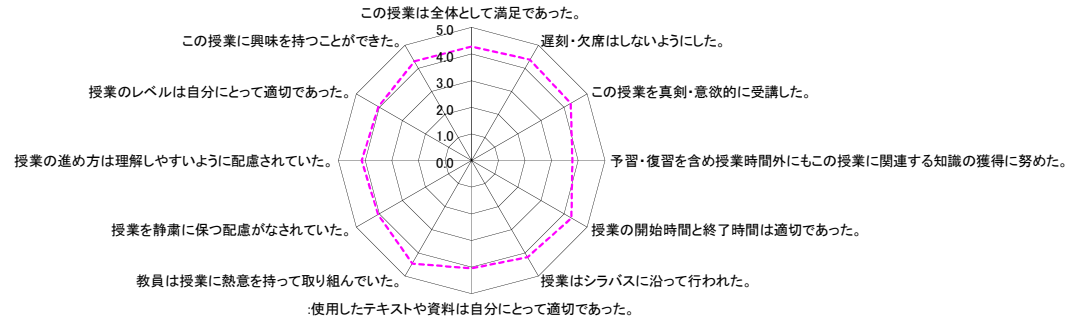
$$\{(5 \times \text{選択人数}) + (4 \times \text{選択人数}) + (3 \times \text{選択人数}) + (2 \times \text{選択人数}) + (1 \times \text{選択人数})\} \div \text{有効回答数}$$

※小数点以下第2位を四捨五入

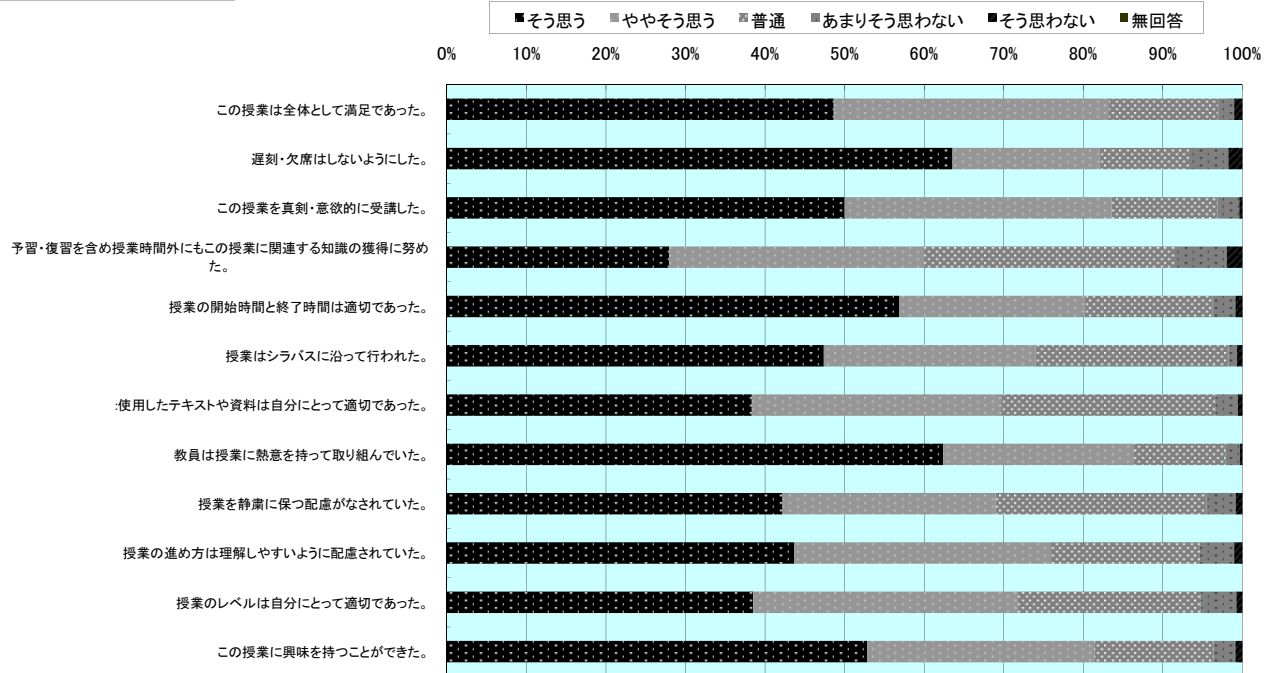
項目別回答分布(5. そう思う 4. ややそう思う 3. 普通 2. あまりそう思わない 1. そう思わない 9. 無回答)

設問内容	5	4	3	2	1	無回答	平均
A-1 この授業は全体として満足であった。	677	482	191	28	14	0	4.3
B-1 遅刻・欠席はしないようにした。	886	258	157	69	24	0	4.4
B-2 この授業を真剣・意欲的に受講した。	697	468	186	38	5	0	4.3
B-3 予習・復習を含め授業時間外にもこの授業に関連する知識の獲得に努めた。	390	447	439	91	27	0	3.8
C-1 授業の開始時間と終了時間は適切であった。	793	325	225	40	12	0	4.3
C-2 授業はシラバスに沿って行われた。	661	371	338	15	9	0	4.2
C-3 :使用したテキストや資料は自分にとって適切であった。	524	429	368	39	7	0	4.0
C-4 教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	871	335	161	25	4	0	4.5
C-5 授業を静粛に保つ配慮がなされていた。	578	367	362	51	11	0	4.1
C-6 授業の進め方は理解しやすいように配慮されていた。	609	451	261	60	14	0	4.1
C-7 授業のレベルは自分にとって適切であった。	538	465	321	63	10	0	4.0
C-8 この授業に興味を持つことができた。	736	397	209	38	12	0	4.3
D-1	168	142	81	9	7	0	
D-2	184	135	70	17	0	0	
D-3	90	99	70	15	5	0	
D-4	110	45	18	6	5	0	

評価レーダーチャート



評価帯グラフ



集計結果について

2010 年度前期の全学科を包括した授業評価アンケート集計結果（科目種目別平均値）は表 1 の通りである。それぞれの質問項目は、「5 そう思う」「4 ややそう思う」「3 普通」「2 あまりそう思わない」「1 そう思わない」の 5 段階で評価されている（括弧内は 2009 年度前期の結果を示す）。

表 1 全学の科目種目別平均値

	設問内容	講義科目 平均値	演習科目 平均値	実験・実習科目 平均値
A-1	この授業は全体として満足であった。	3.9(3.9)	4.3(4.3)	4.3(4.3)
B-1	遅刻・欠席はしないようにした。	4.3(4.3)	4.4(4.4)	4.4(4.4)
B-2	この授業を真剣・意欲的に受講した。	3.9(3.9)	4.3(4.3)	4.3(3.9)
B-3	予習・復習を含め授業時間外にもこの授業に関連する知識の獲得に努めた。	3.1(3.1)	3.6(3.7)	3.8(3.8)
C-1	授業の開始時間と終了時間は適切であった。	4.3(4.3)	4.5(4.1)	4.3(4.1)
C-2	授業はシラバスに沿って行われた。	4.1(4.1)	4.3(4.2)	4.2(4.2)
C-3	使用したテキストや資料は自分にとって適切であった。	3.8(3.9)	4.2(4.2)	4.0(4.1)
C-4	教員は授業に熱意を持って取り組んでいた。	4.3(4.3)	4.6(4.6)	4.5(4.5)
C-5	授業は静粛に保つ配慮がなされていた。	4.0(4.0)	4.1(4.1)	4.1(4.1)
C-6	授業の進め方は理解しやすいように配慮されていた。	3.8(3.9)	4.2(4.2)	4.1(4.1)
C-7	授業のレベルは自分にとって適切であった。	3.7(3.8)	4.1(4.1)	4.0(4.0)
C-8	この授業に興味を持つことができた。	3.9(3.9)	4.3(4.3)	4.3(4.3)

この 2010 年度前期の授業評価アンケートの集計結果に関して、以下のような点が指摘できる。

①時系列でみて変化は認められない

この表1に示されているように、ほとんどの項目の数値は2009年度と変わってはおらず、それ以前との比較においても同様である。また、この集計結果の全体的傾向は、各学科のそれと概ね同じである。

②授業全体の評価＝概ね満足

授業全体については、すべての科目群が4ポイント程度ないしはそれ以上を示しており「概ね満足」と評価されていると判断できる。因みに、設問A-1の評価の割合をみれば(表2)、講義科目では5と4の評価が全体の66%を占めている。演習科目についてみれば5と4合わせて86%となっており、同様に実験・実習科目も5と4合わせて84%と高い数値を示している。

表2 設問A-1「この授業は全体として満足であった」の評価の割合

科目・種目 \ 評価	5	4	3	2	1
講義科目	1653(31%)	1867(35%)	1393(26.1%)	311(5.8%)	108(2.0%)
演習科目	1104(49.8%)	797(35.9%)	250(11.3%)	50(2.2%)	17(0.8%)
実験・実習科目	677(48.6%)	482(34.6%)	191(13.7%)	28(2.0%)	14(1.0%)

③演習や実験・実習に比べて相対的に全項目のスコアが低い講義科目

講義科目と演習科目および実験・実習科目を比較すると講義科目のスコアが比較的低い。しかし、講義科目の多くの項目に3ポイントの数値でもほぼ4に近い数値であり、その点を考慮すれば必ずしも低いという判断は下せない。

④全項目のスコアが高い演習科目と実験・実習科目

演習科目および実験・実習科目は全項目において講義科目に比べ高い数値を示している。この背景・原因についてはアンケート調査からはわからない。ただ、少なくとも演習科目や実験・実習科目は、教員と学生とのインターラクティブな関係が形成されやすく、そうした環境下で、教員のより適正な学生把握も可能となり、学生の主体的・能動的な授業への参画を引き出すのに講義科目に比べ少なからず成功しているだろうことは表1の数値から容易に推察される。

⑤教員の授業への取り組み姿勢

教員の授業への取り組み姿勢は全体として評価されているとみてよい。設問C-4「教員は授業に熱意を持って取り組んでいた」かのスコアがすべての科目種目において最も高い。

表3 設問C-4「教員は授業に熱意を持って取り組んでいた」の評価の割合

科目・種目 \ 評価	5	4	3	2	1
講義科目	2852(53.5%)	1469(27.5%)	872(16.3%)	108(2%)	39(0.7%)

演習科目	1545(69.5%)	467(21%)	193(8.7%)	15(0.7%)	3(0.1%)
実験・実習科目	871(62.4%)	335(24%)	161(11.5%)	25(1.8%)	4(0.3%)

⑥検討課題

①～⑤からわかるように、全体として見た場合、この授業評価アンケートから現状の授業運営に関する問題点は見えてこない。しかし、そのことは現状の授業がまったく問題なく理想的に運営されていることを証明するものではない。このアンケートはあくまで学生の側からの一つの評価(授業の見え方)を示すものであり主観性を免れないということも教員は肝に銘じておく必要がある。

このアンケート集計結果の中に問題点を見出すとすれば、すべての科目種目において B-3 の「予習・復習を含め授業時間外にもこの授業に関連する知識の獲得に努めた」かを問う設問が 12 の設問項目の中で最も低いという点であろう。表 4 は設問 B-3 に関する評価の割合を示したものであるが、講義科目では表 3 からわかるように 2 の回答 (17.2%) と 1 の回答(6.5%)の合計は 23.7%になっており、約 4 人に 1 人は授業には真面目に出席するが予習復習はしないという状況にあるということになる。科目履修において厳密なキャップ制が導入されていないこともあり、数多くの科目を履修する本学学生(特に 1・2 年次)の現状からすれば、すべての科目において授業時間以外での学習を期待することは難しいように思われる。さらに言えば、こうした点の改善を視野に入れつつ、より主体的な学びの姿勢を涵養すべく組織的努力が必要であることを表 3 および表 1 は示唆している。

表 4 設問 B-3 「予習・復習を含め授業時間外にもこの授業に関連する知識の獲得に努めた」の評価の割合

科目・種目 \ 評価	5	4	3	2	1
講義科目	496(9.3%)	1237(23.3%)	2318(43.7%)	912(17.2%)	343(6.5%)
演習科目	483(21.7%)	686(30.9%)	764(34.4%)	226(10.2%)	632(8%)
実験・実習科目	390(28.0%)	447(32.1%)	439(31.5%)	91(6.5%)	27(1.9%)

付記: 本学では 2009 年 11 月、専任教員 92 名を対象に「授業運営に関するアンケート」を実施した(回収率 80%)。その中で、「学生による授業評価アンケートは授業改善の参考になっているか」を問うているが、そこでは 80%以上の教員がその有効性を認めている。

また、「授業評価アンケート」は、5 段階評価の 12 の設問の他に自由記述欄を設けており、その記述も含めて「自分が気づいていないところを気づかせてくれ、参考になっている」といった積極的に評価する声が多数寄せられている。

以上